

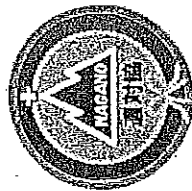
任命状

島崎 三步 様

長野県山岳遭難防止対策協会

「特別隊員」に

任命いたします



平成25年 3月 13日

長野県山岳遭難防止対策協会
会長 長野県知事 阿部 守一



信州の山を楽しく安全に ～山岳遭難事故が急増しています～

山を汚さない！
人に迷惑をかけない！
無事 家に帰る！

登山者の10箇

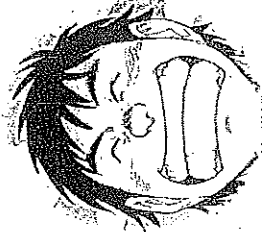
- 1 命の道しるべ 登山計画書 は 家族に託すメッセージ
- 2 登りたい山より 登れる山 自分に見合った山選び
- 3 体力・装備・知識の総合力で 頂きめざす 登る前から体調管理
- 4 山のマナーは 命のマナー あいさつ交わし情報交換
- 5 年齢考え ひとがええめ登山 過去の体力 過去のもの
- 6 ヘルメット 命を守る必需品 頭部の事故が命取り
- 7 山の天気は生死を分ける 天気予報 は遭難予報
- 8 山頂は通過点 下山道こそ 細心注意
- 9 登山はスボーズ 視光気分が遭難まねく
- 10 もしもに備える 山岳保険



島崎 三步 特別隊員

(C)2013 長野県山阿部

長野県山岳遭難防止対策協会



山登り10訓

一歩の山

【長野県山岳遭難防止対策協会】

©2005 石塚真一小学館

その1 命の道しるべ 登山計画書 は家族に託すメッセージ

- ◇登山計画書は、万が一の場合の素早い救急救助の手がかりになります。
 - ◇登山計画書は、家族に託すとともに警察署や警察本部にも届けましょう。
- 長野県警本部への届出(メールも可) 長野県警署/登山計画書

その2 登りたい山より 登れる山 自分に見合った山選び

- ◇自分の体力や技術・経験に見合ったコースを選ぶことが大切です。
- ◇低山から経験を積み、登りたい山ではなく、登れる山を選びましょう。

その3 体力・装備・知識の総合力で 頂きめさず 登る前から体調管理

- ◇酸素が薄く、気圧が下がる高地では、十分な体力と万全な体調でなければ、発病やけいれんなどの思いがけないトラブルが発生します。
- ◇遭難者には「登る前から遭難している」と言われても仕方ないほどの軽装備の方がいます。経験者や登山用品店のアドバイザーを受け、登る山に見合った装備と知識を備えてください。

その4 山のマナーは 露のマナー あいさつ交わし情報交換

- ◇「登り優先」「山側待機」「早出早着」などの登山マナーは周囲の登山者や山小屋への気づきだけでなく、事故の防止にもつながります。
- ◇夕暮れ時や夜間の山小屋への到着などは除外です。暗くなる道迷い等により遭難する可能性が高まります。

その5 年齢考え ひかえの登山 過去の体力 過去のもの

- ◇遭難者全体の78.5%が40歳以上の中高年登山者です。60歳以上では46.6%です。(平成24年)
- ◇過去の経験を通信せず、体力やバランスの衰えを自覚した、行動計画をたてましょう。

《3つの約束》
山を汚さない！
人に迷惑をかけない！
無事 家に帰る！

特別職員「島崎 三歩」



その6 ヘルメット 命を守る必需品 頭部の事故が命取り

- ◇滑落や転倒で頭部のケガをする遭難者は4人に1人。
- ◇あごひも締めれば気持ちは引き締まります。

その7 山の天気は生死を分ける 天気予報 は命のお守り

- ◇天候の判断を誤り、撤退が遅れる遭難ケースが目立ちます。山岳地帯の気象の変化は急激です。気象のチェックと早めの判断が生死を分けます。
- ◇一般の天気予報は平地のもので、専門の山岳気象予報を調べてから登りましょう。

その8 山頂は通過点 下山道 細心注意

- ◇遭難は、足腰にダメージが蓄積される下山道で多発しています。
- ◇体力消耗も加わり、集中力が失われるのも下山道です。無事帰宅が最終目標です。

その9 登山はスガヤ 日光気分が 遭難まねく

- ◇道迷いや疲労で遭難した人の多くは「考えが甘かった」とよく言います。スポーツでは、試合前にトレーニングし、作戦を立てるのは当たり前のこと。登山もスポーツでヒタニングではありません。
- ◇日光気分の人まかせでは、自分の命は守れません。登山は自己責任とはいえ、要請を受け実際に救助に向かう側は「命がけ」ということを忘れないでください。

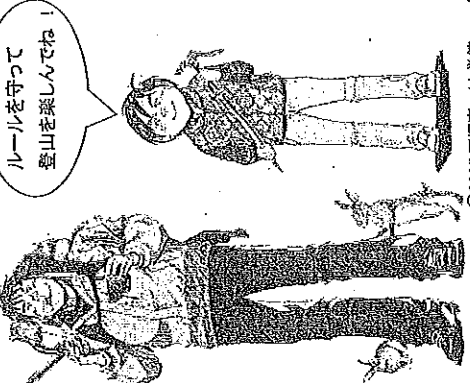
その10 もしもに備える 山小屋

- ◇救助・捜索活動は多額の費用がかかり、家族が経済的にも精神的にも大きな負担を負うことになります。
- ◇遭難は誰にでも起きる可能性があります。いざという時に備え山岳保険に加入しましょう。

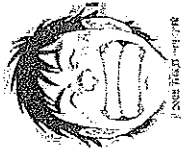


【発行】

長野県山岳遭難防止対策協会 防止対策部
(教育委員会事務局スポーツ管理係)
電話：026-235-7447 (直通)
FAX: 026-232-0111 (代表) 内線 4469
Email: sports-ke@pref.nagano.lg.jp



©2005 石塚真一小学館



第3号(平成25年9月27日)

店舗スタッフと山岳遭難現場をつなぐ
特別隊員
島崎 三歩 の「山岳通信」

この通信はお客様と接する登山用品店舗スタッフの方に、長野県の山岳地域で発生した遭難の代表的な事例を随時お伝えし、「安全登山のアドバイザー」のきっかけとさせていただきます。発行しています。

9月7日～9月22日まで

ケース1

9月7日 北アルプス黒帽子岳 47歳 男性 疲労し行動不能
下山中に疲労により行動不能となったと救助要請があり、
遭対協救助隊員と県警山岳遭難救助隊員が出動。背負い搬送
で下山して大町市内の病院に収容。

*登山はスポーツ。日頃からの体力や筋力のトレーニングを怠りなく。

ケース2

8月10日 北アルプス産松岳 72歳 女性 滑走 死亡
八方尾根から入山し、白馬鍾温泉に向け不帰キレットを縦
走中に滑落したと同行者から救助要請。県警山岳遭難救助隊
と県警ヘリにより救助したが、死亡を確認。

*今年、長野県遭対協がヘルメット着用奨励山城に指定した箇所。

ケース3

9月10日 中央アルプス木曾駒ヶ岳 68歳 男性 積雪 死亡
中央アルプスに入山し登山中に具合が悪いと行って倒れた
と山荘を通じて救助要請。警察署員及び遭対協救助隊員によ
り救助したが、収容先の病院で死亡(心不全)を確認。

*今年のこれまで死亡者の28%は積雪によるもの。日頃の体調管理を怠りなく。

ケース4

9月14日 北アルプス槍ヶ岳 22歳 男性 滑落し負傷
上高地から槍ヶ岳(北鎌尾根)向け登山中、滑落したと同
行者から救助要請。翌朝、県警ヘリで救助して松本市内の病
院に収容。

*遭難者は今年登山を始めたばかり。北鎌尾根は一般ルートではありません。
バリエーションコースは体力、技術、判断力が備わってはいじめて登ることが
できるルートです。力尽きたコース選択を。

ケース5

9月16日 北アルプス常念岳 33歳 女性 転倒、川に流され溺死
下山中に登山道で転倒して沢に流されたと同行者から
通報。翌日、警察本部機動隊員、警察署員が捜索して発見し、
県警ヘリで収容し病院に搬送したが、死亡を確認。

*台風接近中の事故。気象条件が悪いときは事情があっても「停滞」する
ことが必要。

ケース6

9月21日 南アルプス池口岳 72歳女性 下山中、行方不明
下山中、同行者が「はぐれて発見できない」と、警察署に
届出。現時点においても行方不明。

*地図やコンパスは登山の必需品です。また、パーティは一緒に行動する
ことが基本。

ケース7

9月22日 北アルプス五竜岳 65歳女性 滑落し負傷
尾根を下山中に滑落したと別の登山者から通報。県警ヘリ
で救助。

*今年も例年同様に下山道での遭難事故が多発しています。下山道こそ
細心注意。

*本通信に関する質問・意見は kankokki@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。
発行：長野県山岳遭難防止対策協会

山岳遭難防止アドバイザーの設置について

防止対策部

1 目的

本県で発生した山岳遭難事故の遭難者の約8割は県外在住者であり、全国に向けた安全登山のための知識や技術の普及は重要な課題となっている中で、全国から寄せられる安全登山講習会等への講師の派遣依頼に応じる態勢を整備するため、新たに、山岳遭難防止の知識やノウハウを有し講師としてふさわしい者を「山岳遭難防止アドバイザー」として委嘱する。

2 活動内容

全国の山岳関係団体や企業等からの派遣依頼による安全登山講習会等の講師

3 委嘱

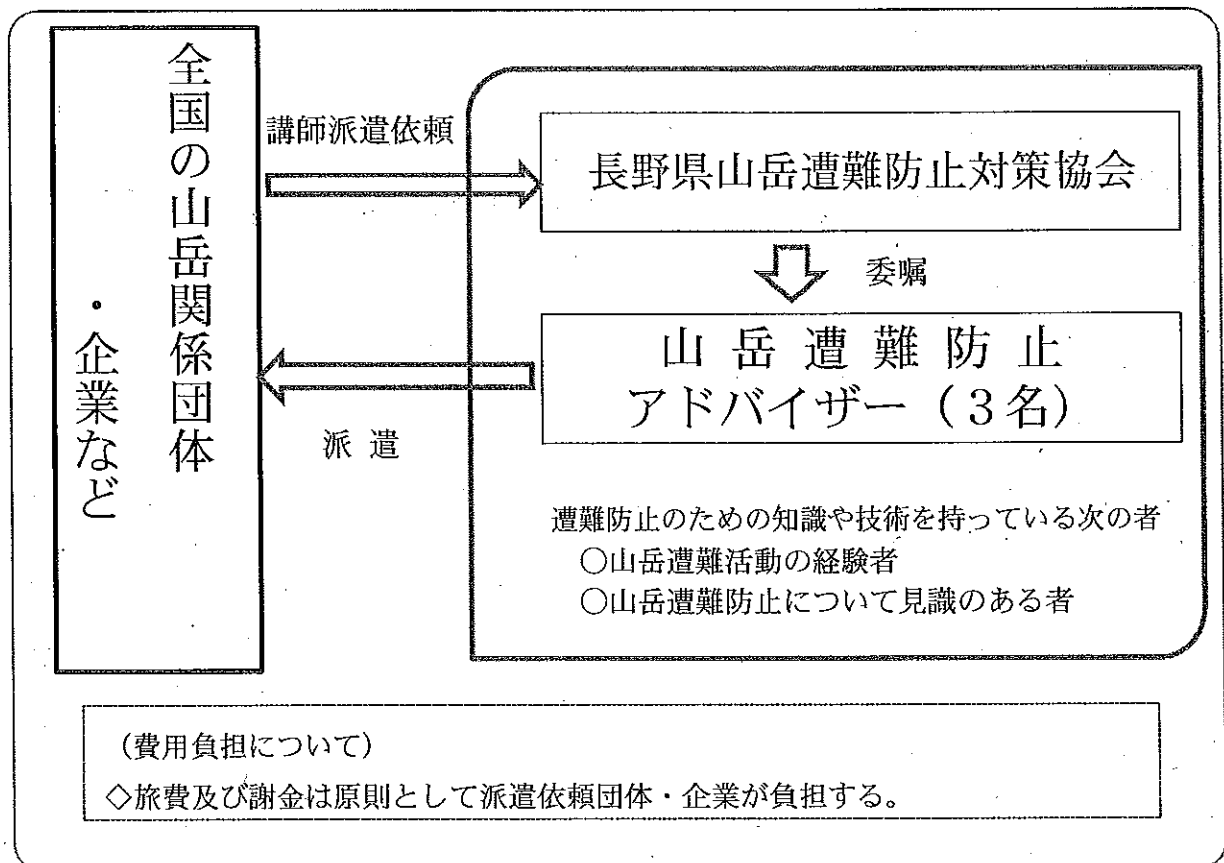
(1) 委嘱日

平成25年10月8日(火)

(2) 委嘱者

氏名	住所地	備考
中嶋 豊	長野市篠ノ井	元県警山岳遭難救助隊長
羽根田 治	埼玉県川口市	フリーランスライター
翠川 幸二	上田市下丸子	元県警山岳遭難救助隊長

(敬称略、順不同)



山域での直接指導

(「夏山常駐パトロール隊の設置」及び「相談員活動への支援」)

防止対策部

夏山常駐パトロール隊の設置

1 目的

山岳遭難事故の防止を図るため、指定山岳にパトロール隊員を常駐し、区域内のパトロールと登山者に対する必要な指導、助言等を行うとともに、遭難事故等が発生した場合においては、警察署長の要請等により捜索、救助活動を行う。

2 隊員

地区遭対協の推薦により、県遭対協会長（知事）が委嘱した 30 名（北部・南部各 15 名）

3 主な業務内容

- ・ 登山道のパトロール
- ・ 登山者への安全啓発
- ・ 捜索救助活動

4 設置場所

登山者の約半数が訪れる北アルプス北部（後立山）及び南部（槍穂高）

5 設置期間

登山者が多い7月中旬～8月中旬の40日間

地区遭対協が行う相談員活動への支援

1 目的

地区遭対協が委嘱した相談員の活動を支援し、山岳遭難事故の防止を図る。

2 相談員の概要

(1) 委嘱

地区遭対協会長が委嘱した者（13地区：約590人）

(2) 主な業務内容

登山届の提出等、登山者への指導及び相談活動

(3) 活動場所

主要登山口等 67か所（平成24年度実績）

(4) 活動延人数

4,435名（平成24年度実績）

